

こんなにあった！日本の薬害...

1948年 京都・島根ジフテリア防接種禍，

1956年 ペニシリンショック

1961年 サリドマイド

鎮痛・催眠剤サリドマイド（日本では胃腸薬にも配合）を妊娠中に服用した母親から手足や耳に奇形をもった子供が生まれた。被害児は世界で数千人、日本約千人（認定数309人）

1965年 アンプル風邪薬

1967年 ストマイ

1970年 種痘禍，コラルジル

1970年 スモン

60年代から下肢のマヒや視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に整腸剤キノホルムが原因とされるまでは、ウイルスによる伝染病と疑われ多数の自殺者も出た。被害者約1万2000人

1971年 クロロキン

1973年 筋短縮症

幼児、小児への筋肉注射によってその部位の筋肉が伸びなくなり、膝や肩、腰の関節が曲がらなくなる症状が相次いだ。被害者9000人以上

1975年 三種混合（DPT）ワクチン禍，クロマイ

1983年 薬害エイズ

米国売血由来非加熱製剤を使用していた日本の血友病患者等約5000人のうち約2000人がHIVに感染し、約600名が死亡した。国は当時安全な国内血漿の利用や加熱製剤の早期導入をせず被害を放置した。

1988年 陣痛促進剤

70年頃から、陣痛促進剤の安易な使用により母親の死亡、子宮破裂、弛緩出血、胎児・乳児死亡、新生児仮死による脳性マヒなどが、被害者団体が把握しているだけで150例以上発生。ただし、この数字は氷山の一角。

1989年 新三種混合（MMR）ワクチン禍

89年導入の新三種混合ワクチンの副反応により、約2000人の幼児が無菌性髄膜炎や脳症となり、死亡や重篤な後遺症が残った。危険性が指摘されたのに5年間強行されたため被害が拡大した。

1989年 予防接種後肝炎

1993年 コスモシン，ソリブジン

1996年 薬害ヤコブ

脳外科手術の際に使用されたヒト乾燥硬膜がプリオンに汚染されていたために100名以上がクロイツフェルトヤコブ病を発症し植物状態の後に多数が死亡。米国では87年に輸入禁止。しかし日本での使用禁止は97年。

2002年 薬害肝炎

出産時や外科手術時の出血、新生児出血症などの病気にフィブリノゲン製剤等の血液製剤を投与され、多くの人がC型肝炎ウイルスに感染させられた。被害者は少なくとも1万人以上といわれている。

2002年 薬害イレッサ

2002年7月世界に先駆けて日本で承認された肺ガン用抗ガン剤イレッサ。副作用の無い「夢の薬」として販売されたが、わずか3年弱で600人以上の死者が出ている。

このままでは「薬害のない明るい未来」は遠い・・・